今の日本をみて

いる

腹が

立ちま

▶195

かれ、一九四五年まで五十年間いわれる人たちは、多かれ少なこのように、台湾の親日派と

年時代を過ごしましたが、いやな思いをした た。日本人の子供とけんかしたときなど、担 任の先生は『日本人と しての誇りがないの か』と、日本の子供の 方をきつくしかりまし た。そんなとき、日本 人が非常に立派にみえ ましてね」と思い出を 神話の崩れる目

本をみていると、腹が立ちます」と言う。

「陳氏はいくつかの理由をあげる。その一つは、台湾の李登輝総統が母校の京都大学の同窓会に出席するための京都大学の同窓会に出席するための京都大学の同窓会に出席するた。日本のかたくなな態度。もう一つは、台湾から日本への入り上、これで付用していない。台湾から日本を訪問しようとする人のすべてがかかわることだけに、深刻に受け止めるべきではないか、という。通常、観光やビジネスで海外へ旅行する場合には、海側に気が出しているのスタンプをパスポートに押してもらえばすむ。しかし、これで代用していてどザ(査師の人に対してはビザを発行していない。台北、高雄にある交流協会を通じて、香港の日本総領事館が「渡航証明書」を発行しているパスポートを、日本側がいるパスポートを、日本側がいるパスポートを、日本側がいるパスポートを、日本側がいるパスポートを、日本側がいるパスポートを、日本側がいるパスポートを、日本側がいるパスポートを、日本側がいるパスポートを、日本側が

人の流れは米国へ

を を を で検証してきたように、日台協調によってさまざまな可能性が で検証してきたように、日台協調によってさまざまな可能性が で検証してきたように、日台協調によってさまざまな可能性が で検証してきたように、日台協調によってさまざまな可能性が で検証してきたように、日台協調によってさまざまな可能性が で検証してきたように、日台協調によってさまざまな可能性が はがるのではないか。日本側の姿勢に失望して、台湾側の対日 を の間題だけではなく、周辺 はがるのではないか。日本側の姿勢に失望して、台湾側の対日 はがるのではないか。日本側の姿勢に失望して、台湾側の対日 はいるという。

を省エネの炊飯器などを考案しる省エネの炊飯器などを考案しる。 中本びいき だ。 専利部押の 『日本びいき』だ。 専利部押の 『日本びいき』だ。 専利の標準が所というのは日本でいる。

めている陳燦暉氏は親日派の台湾の専利商標事務所長をつ

親日派は懸念する 若者にも 日本離れ、の兆候が

親して、台湾をこの制度の適用を出て、台湾を出れて、1年1月の日台野交後も十八年以上、ノービザ待遇として、台湾を近れたのである。ところが、九一年六月、急増した外国人不法就労者対策の一ところが、九一年六月、急増した外国人不法就労者対策の一度として、台湾をこの制度の適用対象からはずしたのである。

日本側の言い分は「台湾は (外交関係のない)未承認国な のでビザの発行はできない」 (外務省)というものだ。しか し、日本と同様に台湾と外交関 係のない国は多いが、先進七カ 国(G7)をはじめ、ほとんど の国は台湾のパスポートも有効 とみなし、ビザを発行している のである。これだけでも台湾側 の神経をさかなでしてきたのだが、日本は一昨年、さらに追い が、日本は一昨年、さらに追い それは台湾に対する「七十二

受け付けようとは違うレーでははようと 会秘書長の曽彬祥氏は、日本政 で与えることか」。亜東関係協 を与えることか」。亜東関係協 を与えることか」。亜東関係協 関僚交流

ルですでにあらわれ始めている対日感情の変化は、民間レベ

じて、ノービザ待遇の復活 北駐日経済文化代表処など 台湾は日本での窓口であ 三要請しているが、 -ビザ待遇の復活を 日本政府は

にのシリーズは、取材班の このシリーズは、取材班の た連載する。外国人の大量流 をもたらしている。外国人の大量流 をもたらしている。不法就 が、日本社会に大きな変化 といった問題にも直面してい る。外国人労働者や難民にど う対応していくべきなのか。 国の進路にもかかわるこの問 題を追う。

ら知米派に移っていくのではないこうとする人々が、知日派かいこうとする人々が、知日派かいではない。 が日本を訪ねて帰って来ると 「以前ほど日本が好きではなくなった」というのだ。 台湾で大学の教鞭をとるかたわら、日本語を学んだ着者 た、というのだ。 台湾で大学の教鞭をとるかたわら、日本語を強・政治大学副教授 は「とくに女性は入国時に、 『本当に日本では仕事をしないんですか』と根ほり葉ほり 聞かれて、いやな思いをする ようです」という。 の大学が日本語科を持っている。台湾人は高齢化している。台湾人は高齢化している。台湾の中学、高校、大学の必修 外国語は英語で、四、五カ所の大学が日本語科を持っている。台湾人は高齢化している。台湾の中学、高校、大学の必修

これまでのような台湾政策を に好意的」という、神話、が崩 れ去る日は近い、といわざるを れまるでのような台湾政策を 懸かっ。 台湾の

親日派はその点を

羽田空港の国際線ターミナルに着いた中 華航空機。台湾の人々が日本を訪れるに は、ピザが出ないなど、さまざまな制約 かある

5

#多数。

ま で

国

お も

ね

る

0

東京外国語大教授

昭和11年、長野県松

本市生まれ。35年、東 京外国語大卒、40年、 東大大学院社会学研究

科国際関係論課程修了、社会学博士。52年

から現職。東京外国語大海外事情研究所長を

兼任。今秋までカリフォルニア大サンディエゴ校大学院客員教授。 「現代中国論」「北京

烈烈」「新冷戦の時

「三つの中国」など著

代」「国際関係論」

で構成した現在の世界シスで構成した現在の世界シスで構成した現在の世界シスで構成した現在の世界シスで構成した現在の世界シスで構成した現在の世界シスでの国民国家

氏

七〇年代には国際社会から ・ おきない。 ・ 大〇年代には国際社会から ・ で、二度の石油危機を見事 ・ に克服しめざましい経済発 ・ に克服しめざましい経済発 ・ に支援の流れを受けて、 ・ の民主化の流れを受けて、

は (大陸から来た国民党より は (大陸から来た国民党より りも) 野党の民主進歩党の 関連進を招くことが予想されましたが、それをあえて許なし、世界史上でもユニークな「経済の離陸」と「政治の自由化」を同時に成功させたわけです。

は、対外関係でも発揮されています。北京でのアジアーし、アジア太平洋経済協力し、アジア太平洋経済協力し、アジア太平洋経済協力も、中国との同時加盟といる。中国との同時加盟といる。 は、対外関係会議(APEC)でも、中国との同時加盟といる。 は、対外関係会議(APEC)でも、中国との同時加盟といる。 は、対外関係会議(APEC)でも、中国との同時加盟といる。 は、対対のです。 さら

に民間の交流も活発で、大国際社会で生き延びました。

ます大きくなるも湾の存在の

ぎ、誠意を示すべい。 むを得ない。核のも、ある程度の

存在の意味はます 存在の意味はます 存在の意味はます そうなる そうなる と、日本は、 いつまで中国 におもねり、 気兼ねして、 台湾という重 要なパートナーを放置し続 けるのか、と

9 定まりません。 中国の軍事力増強、核実 中国の軍事力増強、核実 中国の軍事力増強、核実 で見る限り、あの国は短期 かかわっていますから、当 かかわっていますが良い。

ア外交を考えても、 足元は 和激、トラブルはや 刺激、トラブルはや では日本 は、ある意味で、素人。ですから、かえって政治家に「中国を刺激しない」というう外交路線でいくのか、もりっと主体性を持って対中外っと主体性を持って対中外っと主体性を持って対中外ですが、今度の政権が生まれた今はチャンスだと思いれた今はチャンスだと思いれた今はチャンスだと思いれたのは、ある意味で、素人。ですから、かえって政治家らしい外交ができると思いましい外交ができると思いま

『沈黙の大国』の前半分をまとめた単行本が、扶桑をまとめた単行本が、扶桑をまとめた単行本が、扶桑をまとめた単行本が、扶桑をですが、後半分は連載を了後、出版する予定できる。 ら反論することも必要できだし、中国が何か言ったきだし、中国が何か言った

昨年1年間の台湾から日本へ の入国者数は74·6万人、日本か らの防台は79·5万人でほぼ均衡 している。ただ、入国管理では している。ただ、入国管理では 大きなアンバランスがある。日 本側は台湾に渡航証明書を要 求。国際慣行で乗り継ぎのため) ・ に立ち寄った旅客に対して適用

されている72時間の査証(ビ ザ) なし入国も認めていない。 一方、台湾は近く、日本人観光 客の減少防止の意味もあって、 観光目的の場合、5日以内のピ ザなし渡航を解禁する。乗り継 ぎ客に対しても2週間までビザ なし入国を認めている。

●日台関係史●

・日本、台湾に出兵
・日本、台湾に出兵
・日清戦督府の議和条約で清が日本に台湾を割譲、 台湾戦督府の統治まる
・清朝倒れる==辛亥(しんがい)革命
・皇太子裕仁摂政宮(昭和天皇)、台湾視察
・中央山脈・霧社で先住民が日本人を襲撃。132人が寛人の改姓名開始
・ 第2次大戦開戦
・ 台湾人の改姓名開始
・ 第2次大戦開戦
・ 台湾人初の志願兵
・ 台湾人への徴兵制実施
・ 経戦
・ 台湾総督府廃止
・ 国民党政権、共産党との内戦に敗れ、首都を南京から台平和条約調印
・ 吉田茂元首相、訪台

40 41 42 44 45 49

52 64 65 67 71

・台湾、日本などの査証なし渡航実施を決定

「沈黙の大国」取材班

火曜日から土曜日まで掲載